

# スローイングビンゴ

場 所	人 数
屋内・外	3人対3人

## ◇ スローイングビンゴをする前に

このゲームは、平成十年に、栗東市体育委員である市川知幸さんが病気入院中に、わずかなスペースで、誰もが出来るニュースポーツを作りたいとの思いから、考案されたのが始まりです。栗東市体育指導委員協議会で検討を重ねてきたものです。

方眼的に向かってサンド・レットという袋を投げ、縦・横・ななめのいずれか5つ並べるゲームで、子どもから高齢者まで、屋内外を問わずにできる軽スポーツです。

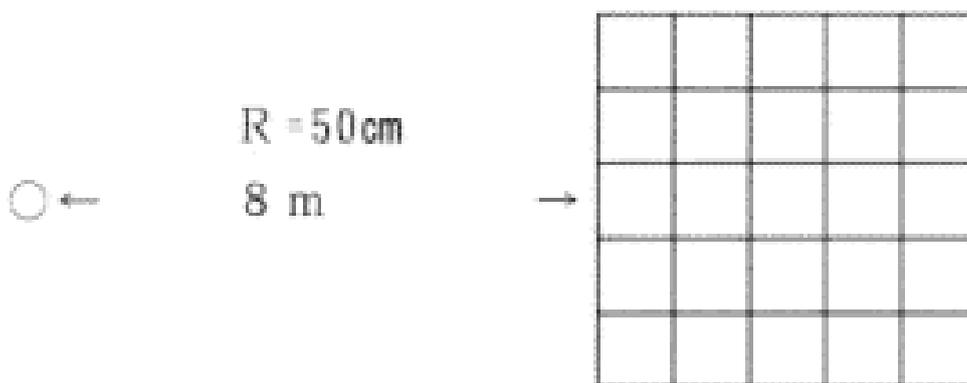
## 用 具

- \* サンド・レット(専用投球袋 重さ 350g)
- \* 紅白 2色×12個
- \* ビュット(目標袋)1個
- \* スコアカード
- \* 巻き尺
- \* 方眼シート(地面に書いてもよい)



## 場所・コート

一辺が1メートルの方眼25個(ビニールシートにテープを方眼状に貼っておくと便利)



## ゲームの進め方

- (1) チーム編成は、3人対3人を基本とし、各プレイヤーの投球回数は4回とする。2人対2人、1人対1人で行うこともできる。
- (2) じゃんけん等で決めた先行が、まずビュットを投げる。(後述(8)のボーナスポイントに関係するので作戦を考えること)
- (3) 続いて、サンド・レットを先攻、後攻の順に各チーム1回ずつ交互に投げる。
- (4) 方眼の線上にかかって落ちた場合は、真上からみて、どちらのマスにはいるか判断する。きわどい場合は審判の判断によりリプレイ(再投球)とする。
- (5) 相手チームが先に入れたマスに、もう一方のチームが後から入れた場合、そのマスは共通のポイントになるが、同一チームが1マスに2個以上入れても無意味である。
- (6) 既に落ちたサンド・レットに、ぶつけて動いた場合も、元に戻すことはできない。
- (7) これを繰り返して、縦・横・ななめのいずれかに5つ並んだとき(ビンゴ)10点が入り、その時点で、そのセットは終了する。
- (8) ビンゴの列の中にビュットが含まれている場合は、ボーナスポイントとして、さらに5点追加する。
- (9) 1セットに、各チーム12回ずつ投げてもビンゴが成立しない場合のみ、4つ並んでいる状態(リーチ)があれば、リーチ1列につき3点を与える。(ダブルリーチ、トリプルリーチもあり。1列につき3点なので、リーチ点は最高で15点まで可能。)
- (10) 次のセットは、前セットで負けたチームが先攻となりゲームを再開する。

## ルール

- ①投球フォームは自由とするが、必ずひもに指をかけて投げること。
- ②サンド・レットが着地するまで、スローイング・サークルから出てはいけない。

## 勝敗の判定

\*1ゲームは4セットまでとし、総合得点で勝敗を決定する。(最短3セットで終了)

## ちょっとひとこと

- \*サンド・レットは、袋状で口をひもで縛ってあるので、投げる角度や地面へのあたり方で、転がり方が変わり、偶発的な楽しさも味わえます。
- \*6人対6人、12人対12人でも可能です。
- \*参加者の実態に合わせて、方眼までの距離やスローイング・サークルの大きさを調整するとよいでしょう。

《栗東市体育指導委員協議会考案ルールより》